

水産職の業務内容

1. 島根県の水産業の現状

◆ 漁場が自慢です！

- 島根県の沖合には、黒潮から分かれた対馬暖流が流れ、隠岐諸島や九州沖から続く大陸棚（水深200m以浅）などの複雑な海底地形と相俟って、多種多様な魚介類が生息する豊かな漁場が広がっています。
- 豊かな漁場を背景に、沖合ではまき網や底びき網、沿岸では定置網、刺網、一本釣など様々な漁業が営まれ、水揚量は全国6位（R5）となっています。
- また、漁獲量日本一のヤマトシジミの産地である宍道湖などの汽水湖や、水質日本一に何度も選ばれた清流 高津川に代表される多様な資源（アユ等）を育む河川が数多く存在しています。

■ 島根県の海面漁場



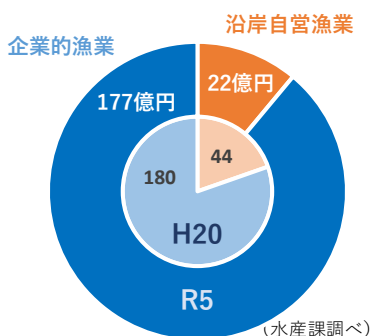
■ 島根県の内水面漁場



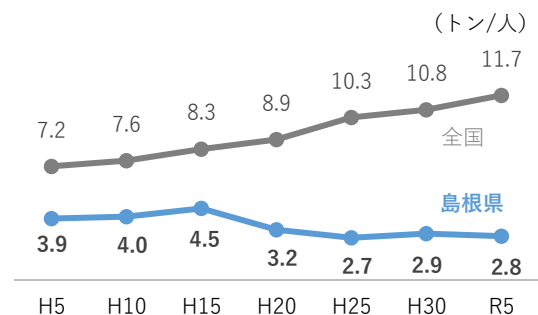
◆ このような課題があります

- 漁業生産について、企業の漁業※は安定、沿岸自営漁業は低迷しています。
※企業の漁業とは、人を雇って操業する比較的大きな漁業（まき網、底びき網など）をいう。

■ 漁業産出額に占める沿岸自営漁業の割合 (H20[内側]とR5[外側])



■ 沿岸自営漁業の生産性の推移



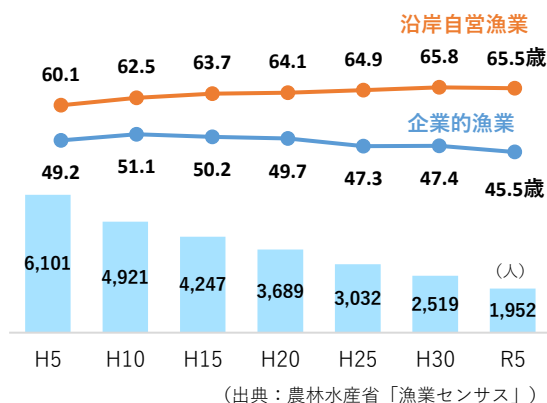
(出典：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、
「漁業センサス」を基に水産課で推計)

1. 島根県の水産業の現状（つづき）

◆ このような課題があります（つづき）

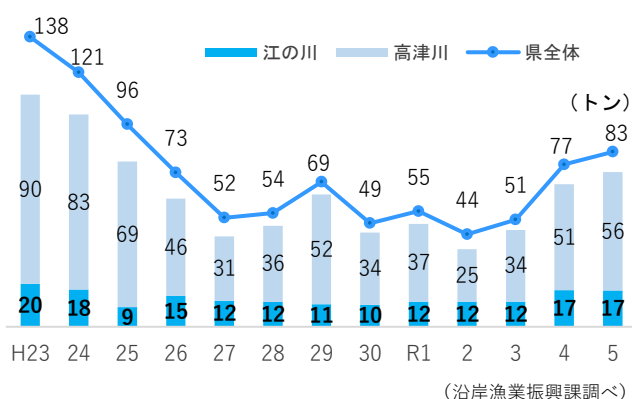
- 漁業就業人口は20年間で54%減、平均年齢56.0歳
- 沿岸自営漁業では高齢化が進んでいます。

■ 漁業就業人口と平均年齢の推移



- 内水面では、アユの資源が減少していましたが、回復の兆しが見られます。

■ 県内主要河川におけるアユ漁獲量の推移



◆ 島根県が取り組むこと！

① 沿岸自営漁業の新規就業者確保

- 沿岸自営漁業の新規就業者の定着に向けた研修期間中の生活支援の強化や、新規就業者の受入環境整備として、担い手育成に協力的な漁業経営体と連携し、指導体制の強化に取り組めます。



研修
◆就業型研修
経営体に雇用されながら
自営漁業技術を取得
◆独立型研修
マンツーマン指導により
自営漁業技術を取得

③ 企業的漁業の維持・発展

- 水産物の安定供給等、地域経済の維持に重要な役割を有する企業的経営体に対し、高性能漁船の計画的導入等を推進します。



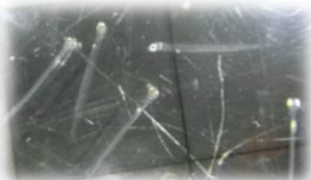
② 沿岸自営漁業者の所得向上

- 海洋環境が変化する中、新たな漁法に取り組む場合の漁具の貸与(たいよ)や、効率的な操業を可能とするスマート技術の導入、消費者ニーズに対応した商品づくりを支援します。



④ 内水面漁業の再生・維持

- 資源回復・安定化に向けて、アユでは、県外産種苗から県内産種苗への切り替えや放流拡大を推進します。



2. 業務内容

【研究職】

漁業現場を専門知識と調査で支援

漁業者の収入増につながる有益な情報を提供するための様々な調査、分析を行います。

現在どんな仕事を担当していますか？

浜田市にある水産技術センターに所属しており、大型の魚からプランクトンまで、海・河川問わず幅広い範囲の生物の調査を担当しています。海では国が行っている資源管理のため、ブリを始めとする大型浮魚類の調査を行なう一方で、海水を採水し顕微鏡によりプランクトンを観察、赤潮の発生を監視しています。河川ではアユを担当しており、アユの生活環境の調査のために実際に川に潜って調査を行うこともあります。年に数回、研究成果を他県の研究者や漁業者の前で説明したり、学生に向けた出前授業も行っています。

島根県職員として働く魅力は？

島根県には日本の原風景ともいえる里山・里海が現在でも数多く残っており、この自然豊かなフィールドで、様々な生き物を身近に感じながら調査を行うことが出来るという点に一番魅力を感じます。市場調査など早朝に行う調査や、1日かけて行う河川での調査など体力的に疲れる業務もありますが、市場で普段見ることのない珍しい魚が並んでいたり、川での潜水調査中に目の前をアユの群れが泳いでいる光景を見ると、とても心が躍ります。また、調査結果を県民の方へ報告した際に、漁業者の方が興味を持たれて話しかけてくださった時や、県民の方が電話の問い合わせ等で当庁を頼りにしていただけた時は自分の行っている仕事にやりがいを感じることが出来ます。

ある1日のスケジュール

- 7:30 ● 起床
- 8:10 ● 通勤
- 8:20 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、メール確認
- 9:00 ● 漁獲データ集計
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 河川調査
(潜水、ドローンによる上空撮影等)
- 17:15 ● 退庁
- 17:45 ● 帰宅



清流 高津川 アユ遡上調査

【普及指導員】

「地域の水産業を支える身近なパートナー」

水産業普及員として、地元漁業者や漁協と密接に関わりながら、島根県の水産業の振興に取り組んでいます。現場に足を運び、漁業者への技術支援や就業希望者への支援を行うなど、地域の課題解決をサポートしています。

現在どんな仕事を担当していますか？

漁業者の所得向上に向けて、①漁業者といっしょに漁船に乗って新たな漁法導入試験をしたり（アマダイのはえ縄、曳縄など）、②イワガキ養殖業者と生産性向上のための試験や、新たにワカメ養殖を始めようとしている漁業者向けに学習会を開催しています。新規就業者を増やすため、就業に向けての研修や独立までの支援を行っています。

島根県職員として働く魅力は？

自然豊かな地域に根ざし、地域住民と直接関わりながら仕事ができるのが魅力です。現場主義で課題解決に取り組む中で、地域に貢献している実感が得られます。また、新規就業者が技術を身につけて一人前の漁師に成長していく姿を見守ることができるのも、この仕事ならではの醍醐味だと感じています。島根県の豊かな海の恵みを活かしながら、地域の水産業の未来を漁業者の皆さんといっしょに築いていける、とてもやりがいのある仕事です。

ある1日のスケジュール

- 6:30 ● 起床
- 8:00 ● 通勤
- 8:10 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、スケジュール確認
- 9:00 ● イワガキ養殖業者と
生産性向上のための試験実施
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 新規就業希望者との面談
- 15:30 ● 報告書の作成
- 17:15 ● 退庁
- 17:25 ● 帰宅



漁業者向け ワカメ養殖 学習会

【行政（本庁勤務等）】

水産業の成長産業化

水産資源を適切に管理し、漁獲量を維持・増大させることで、漁業のみならず関連産業も含めた水産業全体の成長産業化を目指しています。

現在どんな仕事を担当していますか？

所属する水産課資源係は、水産資源の管理や漁業の秩序を維持するために法令等に基づいた事務を担当しています。漁業者の収入源である水産資源を持続的に漁獲できるよう、漁業者等の意見も聞きながら今も未来も考えた管理の仕組みを検討、実践します。また、操業秩序を守るためのルール作りも行っています。

島根県職員として働く魅力は？

魚に県境はないので、同じ資源を利用する他県等との連携も不可欠であり、スケールの大きな仕事を経験出来ることが魅力の1つだと感じています。

ある1日のスケジュール

- 6:00 ● 起床
- 7:40 ● 通勤
- 8:00 ● 登庁
- 8:30 ● 始業、スケジュール確認
- 9:00 ● 漁獲実績の確認
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 他県・水産庁との協議
（Web会議）
- 15:30 ● 協議録の作成
- 17:15 ● 退庁
- 17:40 ● 帰宅



職場から望む 国宝 松江城

3. 職員構成

出身大学及び学部

- ・ 水産大学校 水産流通経営学科
- ・ 長崎大学 水産学部
- ・ 東京海洋大学 海洋生命科学部ほか ※旧東京水産大学水産学部
- ・ 広島大学 生物生産学部
- ・ 北海道大学 水産学部
- ・ 高知大学 農林海洋科学部 ※旧農学部 など

年齢構成及び男女比

